



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
と
学
生
の
ツ
ム
ぐ

第24号

2017年8月8日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.3

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

8月8日、実質前半初日 Aくんの成長



Aくんは3年生。5年生のお兄さんがいます。5年生のお兄さんは、「わく算」、5年連続皆勤賞です。3年生の頃までは支援が必要なこともありましたが、SPさんたちの「愛情」にも育まれ、どんどん表情が変わってきました。今では学級のリーダーになっています。学習もじっくり落ち着いて取り組めるようになりました。彼にとって、「わく算」は、大げさではなく、「彼の人生を変えた」教育活動でした。5年間休まずに「わく算」に通い、苦手な算数が好きになり、同時に「学習に対する自信」をつ

けていったように、見ていて感じています。

さて、その弟のAくん。1年生から皆勤賞です。1年生の頃の彼を知る人は、今年、「Aくんが来ているはずだけれど、どこにいるか分からない」と探してしまうほど、彼は学習に集中していました。心が成長していたのです。1年生のとき、10分も座っていられなかったのです。SPさんが全力で関わってくれましたが、やはり集中は難しく、当時、SPさん同士でよく、「どうしたらAくんを学習に向かわせられるだろうか、算数を好きになってもらえるだろうか」と相談が行われていました。一人の子に対して、担任でもないのに、こうして全力で関わり考え悩んでくれるSPさんの存在、すばらしいです。

Aくんは、SPさんの愛情と真摯な対応、真剣な指導によって、どんどん成長してきました。3年連続、かかさずに「わく算」に申し込んでくれる。勉強嫌いだっただけの彼が、夏休みにわざわざ算数の勉強に出かけてくる。この事実からも、Aくんの成長ぶりが分かります。彼を成長させたのは、担任の力もありますが、SPさんの関わり、そして「わく算」という事業のすばらしさ、これが大きな要因だと、断言できます。わく算は、ドラマです。ある東浦の小学校に通う一人の子どもを大きく変えたドラマです。尊い教育活動です。

今年も「Aくんが来るね、よく知っている人が受け持ったほうがいいよね」学生の考えで、Aくんを知り尽くしたウィークリーSP(WSP)さんに担当を変えました。(SP同士で話し合っただけで変えたという事実もすごいことです。)

そして次の写真です。素敵な表情です。わく算の活動の底知れぬ教育効果が表れています。